

1 事業名 さんべ夢ステージ

2 必要性

子ども・若者育成支援推進大綱「子ども・若者ビジョン」（平成 22 年 7 月）には「子ども・若者が、社会とのかかわりを自覚しつつ、自尊感情や自己肯定感をはぐくみ、自立した個人としての自己を確立するとともに、社会との関係では、適応するのみならず、自らの力で未来の社会をよりよいものに変えていく力を身に付けることができるよう、健やかな成長・発達を支援します。」とある。また、重点課題として「子ども・若者が 生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組」で、「子ども・若者が成長・発達するために基礎づくりを支援します。（中略）様々な体験や他者との交流を積み重ねることにより、自立した個人として必要な知識、能力、社会性やリーダーシップなどをはぐくみます。」とある。



このように、ボランティア活動等に参加する青少年の活躍の機会を広げ、あらゆる活動の中でリーダーシップを発揮しながら活躍できる青少年を育成する事業は、社会からの要請があるところである。

本事業は、青少年が様々な体験や交流を通してリーダーシップを身につけ、人間関係能力を育成することをめざしており、青少年教育の推進拠点としての国立青少年教育施設が先進的かつ継続的に取り組むべき事業である。

3 趣 旨

本事業は、主体的に社会に参画しようとしている青少年を対象に、事業の企画・運営を通してリーダーシップを身につけられるよう、将来のリーダーとなるための体験を通じた学びを提供する。

また、「リーダーシップ」と「人間関係能力」をキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係力等リーダーとして必要な資質の向上を図り、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。

4 後 援

島根県教育委員会、島根大学、島根県立大学、松江工業高等専門学校

5 期 日

- ①企画編 平成 25 年 8 月 29 日(土) ～ 8 月 30 日 (日) (1 泊 2 日)
- ②試行編 平成 25 年 9 月 28 日(土) ～ 9 月 29 日 (日) (1 泊 2 日)
- ③準備編 平成 25 年 10 月 18 日(金) ～10 月 20 日 (日) (2 泊 3 日)
- ④本番編 平成 25 年 10 月 25 日(金) ～10 月 27 日 (日) (2 泊 3 日)

6 参加者

(1) 募集対象・人数 ボランティア活動や企画・運営等に興味がある青少年

①企画編 15 名 ②試行編 15 名 ③準備編 15 名 ④本番編 35 名

(2) 参加人数

①15名 ②17名 ③34名 ④51名 (参加者数 54名、延べ参加人数 117名)

(3) 参加者分析

都合のつく編への参加、途中からの参加、全編への参加があった。参加者は全員大学生でその内訳は、島根大学 47 名、島根県立大学出雲キャンパス 6 名（以下県大出雲）、吉備国際大学（岡山県）1 名であった。今年度は県大出雲の学園祭と重なったため、県大出雲からの参加者は平成 24 年度に比べ少なかったが、全 4 編の延べ参加人数は 117 名となった。

①企画編

島根大学教育学部 15 名の参加があった。そのうち、1 回生 5 名、2 回生 9 名、3 回生 1 名で、平成 24 年度の経験者は 6 名であった。

②試行編

島根大学教育学部 14 名、島根大学生物資源科学部 1 名、県大出雲 2 名の参加があった。そのうち、1 回生 10 名、2 回生 4 名、3 回生 1 名、4 回生 2 名で、平成 24 年度の経験者は 5 名であった。

③準備編

島根大学教育学部 26 名、島根大学総合理工学部 1 名、県大出雲 6 名、吉備国際大学 1 名の参加があった。そのうち、1 回生 20 名、2 回生 11 名、4 回生 3 名で、平成 24 年度の経験者は 11 名であった。

④本番編

島根大学教育学部 43 名、島根大学生物資源科学部 1 名、島根大学総合理工学部 1 名、県大出雲 5 名、吉備国際大学 1 名の参加があった。そのうち、1 回生 27 名、2 回生 19 名、3 回生 1 名、4 回生 4 名で、平成 24 年度の経験者は 13 名であった。

参加のきっかけは、「内容に興味があって」が特に多かったが、「友人・知人に誘われて」「交友を広げるため」「自己啓発のために」も多く、リーダー性、人間関係能力向上に対しての意識の高さが伺える。下表のとおりである。

参加理由（抜粋・複数回答あり）	①編（15名）	②編（17名）	③編（34名）	④編（51名）
内容に興味があった	12	12	30	41
友人・知人に誘われて	2	3	17	30
交友を広げるため	4	4	13	18
自己啓発のため	6	8	13	15

(4) 参加者地域 島根県 53 名 岡山県 1 名

7 参加経費

①企画編 1,800 円 ②試行編 1,800 円 ③準備編 2,750 円 ④本番編 1,000 円

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、全 4 編となっている。①企画編は、さんべ祭におけるさんべ夢ステージ学生企画の骨格を作成する場。②試行編は、さらに企画を練り上げ、プレゼンテーションを行い、企画を具体化する場。③準備編は、企画の実現化に向けて準備をする場。④本番編は実際に企画を運営する場になっており、長期的に様々な体験や他者との交流、発信ができる場を設定している。

これらの活動は、学生主体で行うことでモチベーションを高めるとともに、学生たちの可能性や創造力を最大限発揮できる形にしている。また、体験活動普及啓発事業「さんべ祭」をこの事業の発表の場とすることで、学生たちは、運営を通して来場者と直接ふれ合い、社会性を身につけ地域社会へ積極的に参画することができる。地域コミュニティが活性化し、学生にとっても、地域にとっても、本施設にとっても実りの多い事業となっている。

(2) 企画のポイント

①企画編では、アイスブレイクなどを通して学生同士がコミュニケーションを深め、その後の学生企画の素案となる部分であるテーマや内容の話し合いにおいて、自分の想いや考えがしっかりと出し合えるようにする。②試行編からは、学生たちが、企画を具体化し、準備・運営していく中で、当施設職員は、サポート役となることで、学生たちが主体的に企画づくりに取り組めるよう、また、学生たちのコミュニケーション能力や合意形成能力、問題解決能力が高められるよう支援する。

本事業を通して「リーダーシップ」「人間関係能力」の本質についての学びを深め、今後様々な場面で発揮することを期待して企画した。

(3) 広報のポイント

島根県内の大学においては、学生がボランティア活動へ積極的に取り組める環境整備を推進している（島根大学：教師力育成総合支援システム 1000 時間体験学修・ビビットカード、島根県立大学出雲：学生ボランティアマイレージ制度等）。また、それぞれの大学では、ボランティアを募集している団体に説明の機会を設けている。その機会に、当施設職員が平成 24 年度に行ったボランティア活動の様子を映像で紹介したり、当施設のボランティア活動の年間予定を配布したりした。島根大学の説明会では、先輩ボランティアの協力を得て、ボランティア活動の体験を直接語ってもらった。こうした説明の機会を有効に活用して、当施設のボランティア活動の浸透を図った。また、同級生や学生ボランティアが、学生間のネットワークを通じて勧誘等を積極的に行った。

(4) 日程表

①企画編

8/29 (木)	13:00		17:10		19:00		21:00		23:00	
		受付・オープニング・アイスブレイク 実習①「さんべ夢ステージとは」 実習②「夢ステージ企画の話し合い」	つた ど食 い等	実習③ 「夢ステージ企画の話し 合い」			入 浴 等		就 寝	
8/30 (金)	6:30 9:00		12:00 13:00		15:00		16:00			
	起つ朝 ど 床い食	実習④ 「夢ステージ企画の話し合 い」	昼 食	実習⑤ 「夢ステージ企画の話し合 い・発表」	クロージング ふりかえり		解 散			

②試行編

9/28 (土)	13:00		13:30		17:10		19:00		21:00		23:00	
		受付・オープニング 「ねらいの共有」	実習① 「夢ステージ企画の話し合い」①	つたど い食	実習② 「夢ステージ企画の話し合い」②	入浴等	就寝					
9/29 (日)	6:30 9:00		12:00 13:00		15:00		16:00					
	起つ朝 ど 床い食	実習③ 「夢ステージ企画の提示 ・説明」	昼 食	実習④ 「夢ステージ企画の話し合い」③	クロージング ふりかえり	解 散						

③準備編

10/18 (金)	20:30		21:00		22:00		23:00	
		受付	オープニング 実習①「夢ステージ企画の話し合い・準備①」		入浴等	就寝		
10/19 (土)	6:30	9:00	12:00	13:00	17:10	19:00	21:00	23:00
	起つ朝 ど 床い食	実習② 「夢ステージ企画の話し合い・準備②」	昼食	実習③ 「夢ステージ企画の話し合い・準備③」	つた ど い食	実習④ 「夢ステージ企画の話し合い・準備④」	入浴等	就寝
10/20 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	15:00	16:00		
	起つ朝 ど 床い食	実習⑤ 「夢ステージ企画の話し合い・準備⑤」	昼食	実習⑥ 「夢ステージ企画の話し合い・準備⑥」	クロージング	解散		

④本番編

10/25 (金)	20:30		21:00		22:00		23:00	
		受付	オープニング 「企画運営の準備①」		入浴等	就寝		
10/26 (土)	6:30	9:00	11:00	16:00	17:30	19:00	21:00	23:00
	起つ朝 ど 床い食	「企画運営の準備②」	「さんべ祭本番①」	後片付け 明日の準備等	夕休 食憩	今日のふりかえり 「企画運営の準備③」	入浴等	就寝
10/27 (日)	6:30	9:00	15:00	15:30	16:30			
	起 床	朝 食	「さんべ祭本番②」	後片付け	クロージング	解散		

(5) 運営のポイント

①企画編で出てきた企画の骨格となる部分と参加した学生の思いがうまく融合できるように配慮した。特に1回生や②試行編以降初めて参加する学生が意見を出しやすい環境づくりに努めた。

また、学生たちが目的を正しく理解し、方向を見失わないように、①企画編で決定した班及び全体の正・副リーダーを中心に、各編において、必ずリーダーミーティングを設定し支援した。そこでは、各班の進行状況や困り感など情報交換を行って共通理解を図り、協力体制の確認なども行った。さらに本番に向けて、学生同士のネットワークを活かし、新たな参加者の勧誘も行ってもらったようにした。

職員は各リーダーに必要な情報を伝える以外は支援者として関わることを基本スタンスとした。

(6) 安全管理のポイント

朝・夕のつどい等で学生たちの健康状態を確認するとともに、ゆとりのある活動内容を心がけ、それぞれの活動において、各班に活動時間に応じて随時休憩がとれるように配慮した。また、「さんべ祭」来場者の安全にも配慮するように指導した。特に、創作活動班の学生たちは、火気の使用を伴うため、来場者が活動中に火傷をしないように、杉板を焼く行程確認及び用具のチェック等を行った。

(7) 実施状況

①企画編

まず全体で、さんべ祭テーマに沿って、本事業のテーマを決め、ねらい・目的を確認した。それから4つの班に分かれ、KJ法を用いながら、一人ひとりがアイデアを出し合い、今回のさんべ夢ステージの土台となる企画づくりに取り組んだ。その際、どのような工夫や情報が必要かも考えさせ、簡単な企画書をつくった。②試行編で職員対象に行われるプレゼンテーションのリハーサルも行い、問題点や課題の確認をした。

さんべ夢ステージテーマ

「わ」 ～ “わ” から始まる新たな一歩～

言葉の「わ」には、沢山の意味があります。和・話・輪・羽などなど。しかし、どんな「わ」を思うのか、大切にすることといったものは、人それぞれであると思います。どのような「わ」を選ぶにせよ、私たちボランティア、あるいは来場者の方々誰もが、この夢ステージで見出した「わ」から自分たちの新たな一歩につなげてほしい。そんな思いを込めました。



さんべ夢ステージへの想いを語る



アイデアの整理・話し合い



プレゼンテーションのリハーサル

②試行編

学生たちは各班に分かれ、①企画編の決定内容や想いを引き継ぎ、来場者の立場になって考えたり、仲間との絆やつながり考えたりしながら、様々な想いを表現できるような企画になるよう企画書に沿って、企画のねらいや目的、特徴、役割、必要な物品、費用等を話し合い、具体化していった(下表)。学生たちは、それをもとに資料を作成し、職員に向けたプレゼンテーションを行った。その後、新たに出てきた問題点や課題の解決に向けた話し合い、③準備編に向けての準備・予定等の確認を行った。

平成25年度 さんべ夢ステージ企画概要					
班	ネーミング	内 容	ねらい	対 象	実施場所
ステージ	Smile Chain	劇+レク(参加型)。ゲーム、実験、綱引き等検討中) オープニング、MC	さんべ祭の素敵な思い出の根本である”笑顔”を生み出し、その笑顔を通じて来場者、職員、学生、企画者など関係者全員の間でつながりをつくる。	来場者 スタッフ (携わる人全員)	つどいの広場ステージ (体育館)
全体ゲーム	8人のサンペリアン	受付でカードを配り、会場を歩いているサンペリアンを探し、クイズに答えてサインをもらう。時間設定などは行わず、さんべ祭を楽しみながら、見つけてもらう。	過程目標: ①楽しさ、笑顔②さんべ祭では知ることのできない三瓶の良さ・見どころを伝える。 最終目標: また三瓶に来たい!	来場者	交流の家施設全体
自然系ゲーム	自然のドリーム ランドinさんべ	「WA!」(わなげ) 「落ち葉プール」 「ハッピーフライト」	自然と楽しくふれあおう!	親子 子ども	セミナー横広場 (講堂下)
創作活動	楽しスギ! 焼き 杉 de マイブ レート	杉板を焼き、オリジナルプレートを作る。	○自分だけの作品を作ることによってすべての人が三瓶の思い出を持ち帰ってもらう。 ○人の「わ」を広げる。	来場者全般	ボランティア棟



企画の練り上げ



企画のプレゼンテーション



全体ミーティング

③準備編

学生たちは、さんべ祭の来場者をイメージしながら、ポスターやチラシ、ルール、手順、ディスプレイ等の作成、準備物や購入品等の点検を進めた。また、よりよい企画にするために、各班で決めた役割分担でリハーサルを行い、運営のポイントや改善点を話し合った。さらに、ステージ班リーダーや全体リーダーを中心にオープニングやフィナーレの準備・練習も計画的に進められた。リーダーがお互いに声を掛け合い、参加者全員で協力しながら進めることができた。



創作活動班



全体ゲーム班



自然系ゲーム班



ステージ班



全体ミーティング



オープニング練習



フィナーレ練習



確認、確認！

④本番編

一日目は曇りで少々雨もふったが、二日目は晴れ、二日間とも各企画、予定通り実施することができた。学生たちは、企画の段階から常に、さんべ祭テーマ「自然」と「笑顔」でつながる感動体験、さんべ夢ステージのテーマ「わ」から始まる新たな一歩を意識し、また、各班それぞれのねらいや夢ステに対する自分の想いをはっきりとさせ、そして来場者に何を伝えたいかを考えながら取り組んできたことで、テーマに向かってぶれることなく、企画を運営することができた。たくさんの来場者と楽しくふれ合い、たくさんの「笑顔」をもらった学生達は、達成感や満足感を十分に味わうことができた。「リーダーシップ」「人間関係能力」等たくさんの学びがあり、充実したさんべ夢ステージとなった。



さんべ祭オープニング！



来場者と楽しくふれ合い、たくさんの「笑顔」をもらう



学生と来場者でつくりあげた手形の「わ」！



感動のフィナーレ！関わった全ての人と「わ」でつながる！

(8) アンケートの満足度・主な記述

①企画編 <参加者 15 名 満足度 100%>

・今回は自らが企画の中心となって話し合いを行って、今までの三瓶での体験とは違う、新しい発見や課題などを見つけることができました。さんべ祭という大きなステージに向けて、まだ試行段階ではありますが、みんなに喜んでもらえるような企画を実現できるようこれから頑張っていきたいと思います。
・昨年のさんべ祭では、先輩が創り上げた企画の本番だけに参加するという形だったので、今回のように企画当初から関わるのは初めてで、様々なことを学んだり体験できたりしました。次回もリーダーシップを持って臨みたいです。
・今回全体副リーダーを任されることになりました。自分は今まで部活などを通してみてもリーダー格ではなかったので、今回は2回生なので去年とは違う立場で夢ステを支えられたらいいと思っていました。でもまさかこのような重要な役を任されるとは思っておらず、とても不安でした。先輩やリーダーに頼りっぱなしで今回何もできなかった印象が強いです。最後の振り返りでは「責任感」と書きました。今回の企画編では自分の力が出せなかったと反省しています。自分のためにも、さんべ祭に関わる全ての人のためにも、後悔するような結果にならないように、リーダーとしてしっかりと支えていきたいと思っています。
・今回は企画するというところでいろいろなことを一から始めなければならなかったもので、いろいろ大変なことがたくさんあった。しかし、苦勞して計画を立てて事業を行えば、事業を終えたときにもそれ相応の達成感が得られると思う。もっともっと自分の意見を出してより素晴らしい企画が行えるよう頑張りたい。
・何も案のない状態で企画をすることの難しさを改めて思い知りました。これから試行編、準備編への段階で課題が見つかると思いますが、チームで協力していきたいです。
・去年の今頃、企画することが初めてで、何もわからなかったときのことを鮮明に覚えています。ここ三瓶での体験は、来れば来るほど充実感が増しているように感じています。今年、上回生となり、いろいろな視点を持てるようになり、これからもっともっと新しい三瓶を、そしてさんべ祭を創っていかれたらと思っています。
・私は今回初めての参加でしたが、職員の方や参加者のみんながとても優しく接して頂いて、不安なども特になく自然体で活動することができました。企画することの難しさ、また、それに対する思いというのが個々でしっかりと持っておられ、とても勉強になりました。初めはふわふわしていましたが、みなと話し合いをしていくうちに、成功させたい、という思いが強くなりました。是非、また参加したいと感じました。
・全ての根本となる企画という作業は、時間、コスト、安全面などすべてを組み込んだ上で成り立つもので、企画することの大変さを身をもって感じることができました。次回以降も頑張ります。

②試行編 <参加者 17 名 満足度 100%>

・②試行編が終わり、よく頑張ったという充実感と、これからまだまだやることがあるという気持ちが半々でした。③準備編に向けて協力して頑張っていきたい。
・夢ステージ2度目のブースリーダーとなりました。自分なりに「下の学年との関わり」という目標を立てていましたが、正直なところ自分だけが取り組み過ぎた感がありました。適切な役割分担ができるグループというものを理想とし、目指していきたいです。
・今回も短い期間ながらお互いに協力して様々な意見を出し合うことができた。①企画編よりもたくさん発言することができた。
・プレゼンや質疑応答を通して、様々な視点で見る大切さや、人の意見を聞くことの大切さを改めて感じました。自分や班のメンバーだけでは出なかったアイデアも聞くことができ、より良いブースになる第一歩になったと思います。これからさんべ祭に向けて頑張っていこうと思います。
・全体レク班に入ったのですが、すごく楽しくわくわくした1泊2日でした。アウェイ感があるかなと思ったけど、みんな優しく、それに何度が参加したので、「輪」があり、なんかうれしいです。やっぱり「わ」は大切だなと思いました。三瓶サイコウ！全部来たいです。
・イベントの企画をするのは初めてなので分からないことだらけで、人任せなところもありました。いろいろな事業で目標にしている「積極性」を少しでも築けたらいいなと思います。人任せにしている自分を改め、頼られる、また和ませられる存在になりたい。三瓶から帰った時はいつも達成感、充実感を感じられるので、今回はその2つプラスで何か得られるものがあればいいなと思います。
・2日間を通して、もっとアイデアウーマンになりたいと思いました。今回は後輩の皆さんが今までどんな思いで企画を立ててきたのか、今何を悩んでいるのかということを知ることが集中していたように思います。しかし、その悩みに対して、解決するためのアイデアを出せたかという点、あまり出せていなかったように思います。話を聞くことも大切ですが、みんなの考えを上げられるようなアイデアを出して、もっと様々なアイデアが出せるようにすることも、自分の役割ではないかと思いました。また、話し合いの雰囲気を作ることも大切だと思いました。次回からも頑張りたいと思います。

③準備編 <参加者 34 名 満足度 100%>

・自分たちが考えたことが形になるまでには大変なこともあったが、その中で多くの学びがあった。成功のイメージを持ち、考えながら楽しみたい。
・今回さんべ夢ステージに参加して、リーダーとしての心構えを学びました。また企画・運営していく中で、以前参加した企画力・運営力アップセミナーで学んだリーダーが、他の人を引っ張っていく力を発揮できたかなと思います。また、みんなをまとめる難しさも再認識しました。
・3回目からの参加で初めは何も分からずいろいろな人に迷惑をかけました。1日目は本当に何もできずくやしかったけど、2日目、3日目と日を重ねるにつれてだんだんとなじめて、また楽しく充実した時間を過ごすことができました。たくさんの新しい仲間ができてよかったです。
・準備がとても大変だったけど達成感を感じることができました。他の班のみんなも手伝ってくれ、絶対に本番編を成功させたいという気持ちになりました。
・企画編から通して様々なことを学びました。大変なこともたくさんありましたが、仲間と協力して何とか乗り越えることができました。8月末から始まったさんべ夢ステージ企画も来週の本番で終りを迎えます。これまでの集大成なので、頑張って楽しいさんべ祭にしたいです。
・多くのひととの関わりがあり、面白さを感じることで活動になりました。これまでに1回しか参加しなかったの、1回目とはまた違ったメンバーで多くのひとと触れ合うことができ、これからにつながるものとなったと思います。やらなければならないことが多く、大変でしたが、それ以上に楽しさもありました。本番編もうまいき、成功するといいなあと感じます。
・今回は初めて出会う仲間がたくさんいました。それでも自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞きいれたりすることができました。自分のブースのことだけでなく、他のブースと声を掛け合いながら協力することができ、みんなでさんべ祭を成功させようという気持ちになりました。絶対みんなで最高のさんべ夢ステージにしたいです。

④本番編 <参加者 51 名 満足度 100%>

・お客さんが笑顔で「ありがとうございました。」とってくださりとてもうれしかった。
・企画・運営を通して、様々なことを考え、学ぶことができました。人とつながりも増え、とてもよいプログラムだと思います。とても感動し、とても満足しています。ありがとうございました。
・今まで準備してきたことを形にするのは改めて難しいと思った。でも先輩や友達と一緒に創り上げて実現させるのはおもしろいし、やりがいを感じられた。また、何度も三瓶にお世話になり、協力していきたいと思っているのでよろしくお願いします。
・今回のさんべ祭は、自分が思っていた以上にたくさんの笑顔を見ることができました。当日までは、お客さんが来てくれるのか、喜んでもらえるのか不安でした。しかし、たくさんのお客さんが来てくれて、「楽しかった！」「来年もやって！」という声をたくさん聞くことができ、とてもうれしかったし、大成功でした。人と協力すると、大きなものができると改めて思った3日間でした。
・初日は寒過ぎてどうなる事かと思いましたが、子どもたちと関わることができ、とても楽しかったです。最後のさんべ祭となりましたが、例年よりも気持ちにゆとりを持って過ごすことができたと思います。私なりに4年間を通して成長することができたのではないかと思います。今回は後輩とたくさん話をする機会があり、職員さんともたくさん会えてうれしかったです。私も後輩と同じように悩んだり苦しんだりしてきたし、私も先輩や職員さんのようになれるかなと思いました。私は出会いに恵まれているなと思いました。このような機会を与えてくださった三瓶の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。
・三瓶に来て初めて人と関わる機会をいただきました。やっとボランティアらしいことができうれしかったです。すっごく小さい子供から大人の方まで関わることができました。楽しむだけではなく、安全に行うためにはどうすればよいか考えることもできました。また来たいと思うのでよろしくお願いします。
・途中からの参加でしたが、準備や話し合いにしっかりと関わることができ、本番を大きな達成感を持って終えることができました。班をしっかりとまとめ、的確な指示で私たちを引っ張ってくれたリーダーさんをはじめ仲間感謝の気持ちでいっぱいです。夢ステージは初めての参加でしたが、心からきてよかったです。企画するのは大変だけど、考える力、引っ張っていく力、支える力、そして素敵な仲間…いろいろなものを手に入れました。さんべ最高です！
・大学での事前準備、当日、全てとても楽しかったです。各企画もちろん楽しかったけど、何もない状態からみんなで試行錯誤して計画を進め、本番を迎え、失敗もあったけど何とかやり遂げることができて本当によかったです。

10 成果と今後の課題

<成果>

- 学生たちが共に考え、悩み、試行錯誤していく中で、お互いの立場や気持ちを理解しながら活動することで、良好なコミュニケーションを築くことができた。
- ①企画編で4つの班に分かれ、それ以降は、学生たちが主体となって企画・運営を進めていった。その結果、各班で活動を進めていくときに、それぞれの想いや考えを共有し合い、班全体でのまとまりを考えながら活動することにより、メンバー相互の交流の質を高め、一人ひとりが積極的に活動に関わることはできた。
- テーマや条件など決められた活動の中でも、アイディアを出し合い、計画的に企画・運営を行う力を身につけられた。
- 本事業は、継続8年目で流れも定着してきている。学生たちの中に、これまでに本事業の企画・運営に携わったことのある学生が多くいたこともあり、その時得た知識や技能を生かし、適切なアドバイスや率先した行動で、初めて参加する学生のサポート役になることで、リーダー性を発揮し、スムーズな運営となった。
- 今回の活動は、青少年教育施設と地域の人々との結びつきを一層深め、当施設の活性化につながった。来場者からの肯定的な評価が学生たちの意欲を向上させ、「さんべ祭」を成功させた達成感を味わうことができた。
- 参加者のこの事業に対する満足度は、全員が「満足」と100%であった。「楽しかった」「成長できた」「達成感があつた」という声はもちろん、「たくさんの仲間ができた」「多くの人と関わることで笑顔がうれしかった」「ありがとうと言われてうれしかった」という声も多く聞かれ、充実感がうかがえる。この事業を通して、学生のリーダー性や個々の人間関係能力等の向上の一助となっていると感じている。
- 島根大学から47名、島根県立大学出雲キャンパスから6名の参加があった。また、HPなどでも広報した結果、今年度は岡山県の吉備国際大学からも1名の参加があった。引き続き島根大学や島

根県立大学と連携しながら、HPでも広報し、当施設の様々な事業に参画してもらえることを期待する。

- 平成24年度まではこの事業の中に、「企画力・運営力アップセミナー」を位置づけていた。しかし、このセミナーの内容が、当施設のあらゆる事業に通ずるものという理由から、今年度より別々の事業として運営した。セミナーに参加した学生が、そこでの学びを活かして、本事業の企画・運営を行うことができた。

<課題>

- 本事業が、3ヶ月間に渡る長期の事業のため、参加者のモチベーションが維持しにくい面や継続的な参加が難しい面がある。また、所属大学の違う学生が参加しているため、情報共有ができてにくい面もある。学生たちが容易に話し合いや情報交換のできる場の設定やネットワークの構築が必要となる。
- 当施設では、青少年に対して、当施設のプログラム体験を通して、企画・運営する立場になったときに必要となる、知識や技術を習得する学びの場をこれまで提供してきている。本事業でもそこでの学びが活かされているが、企画内容によっては、必要な知識・技術が異なってくるため、今後も学生および来場者が安心して活動に参加できるよう、研修内容を工夫しながら学びの場を提供していく必要がある。
- 今回の事業の満足度はとても高かったが、途中参加の学生の中には、不安を持って参加していた学生もいた。また、事業の説明も不十分なところがあった。担当職員とリーダーが連携を取り合い、しっかりとフォローをしていく必要がある。
- 本事業へは、県内外の3大学1キャンパスからの参加があった。平成26年度以降もこの3大学に加えて、各専門学校などへも広報をすることで、青少年にボランティア活動の促進を図っていきたい。

11 普及計画・普及実績

事業内容および成果について当施設ホームページで紹介する。また、県立の青少年教育施設や大学等へ事業紹介の場を積極的に提供し、成果の普及に努める。さらに、事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し、成果の普及を図る。

(担当 濱野 健一)